



バルプのイメージキャラクター  
ばるちゃん

# バルブ産業ビジョン

—日本ブランドの恒久的な地位確立を目指して—

## 追補版

第2期計画

(平成23年度～平成25年度)

平成23年3月

社団法人日本バルブ工業会

## 「バルブ産業ビジョン追補版」策定に係る構成員名簿

「バルブ産業ビジョン追補版」策定に係る構成員は、次のとおりである。

### ビジョン委員会(順不同、以下同様)

委員長	中村 善典	金子産業(株)	代表取締役社長
委員	岡安 直人	岡バルブ製造(株)	代表取締役社長
〃	横山 達也	東工・バレックス(株)	代表取締役社長
〃	藤島 建夫	フシマン(株)	代表取締役社長
〃	落合 潔	兼工業(株)	代表取締役社長
〃	前田 康雄	前田バルブ工業(株)	代表取締役社長
〃	中川 哲	(株)昭和バルブ製作所	代表取締役社長
〃	濱口 浩一	宮部鉄工(株)	代表取締役社長
〃	中村 政弘	オーエヌ工業(株)	代表取締役社長
〃	西岡 利明	(株)三栄水栓製作所	代表取締役社長

### 技術委員会

委員長	橋岡 由男	(株)キッツ	バルブ事業部技術本部給装 Gr.主任技師
顧問	五味知佳士	(株)キッツ	技術本部主席技師
委員	浅井 修	(株)キッツ	技術本部技術部長
〃	清水 文泰	東洋バルヴ(株)	営業技術サービスセンター センター長
〃	蓬萊 章伸	(株)クボタ	バルブ技術開発部開発管理グループ長
〃	後藤 秀樹	栗本商事(株)	品質保証部長
〃	佐藤 俊雄	岡野バルブ製造(株)	取締役 技術統括部長
〃	鈴木 弘一	(株)ベン	執行役員 技術部 部長
〃	岡本 雅克	(株)テイエルブイ	取締役 設計部ジェネラルマネージャー
〃	奥津 良之	(株)山武 AAC	営業技術部 FI/CV Gr. シニアマネージャー
〃	河本 理之	TOTO(株)	水栓技術センター水栓商品技術開発 Gr. リーダー

### 技術委員会環境ワーキンググループ

主査	浅井 修	(株)キッツ	技術本部技術部長
委員	石黒 文康	(株)INAX	総合技術研究所材料技術開発室グループリーダー
〃	桶川 智也	(株)タブチ	RD ユニット主席技師
〃	砥川 裕行	TOTO(株)	水栓技術部水栓評価技術 Gr. グループリーダー
〃	中島 一彰	(株)三栄水栓製作所	製造本部技術課 課長
〃	樋口 敏夫	日立バルブ(株)	開発センター主任技師
〃	福本 文登	(株)テイエルブイ	設計部技術管理 Gr. シニアエンジニア
〃	山本 博司	(株)山武 AAC IP	マーケティング部バルブ&ポジショナーGr. 調節弁担当プロダクトマネージャー
〃	吉原 豊	(株)フジキン	新製品開発部調査・知財 Gr. グループリーダー

## 国際委員会

委員長	河合 真	株山武	取締役執行役員常務
委員	阿部 高士	株フジキン	執行役員
〃	増尾 宏之	株キッツ	アジア中東営業部 部長
〃	佐藤 精一	株オーケーエム	取締役国際統括本部 本部長
〃	堀田 龍司	日立バルブ(株)	生産管理センター長
〃	青山 文明	金子産業(株)	技術部 部長
〃	内澤 修	株本山製作所	PM室 室長
〃	山本 博司	株山武	AAC IP マーケティング部バルブ&ポジショナーGr. 調節弁担当プロダクトマネジャー
〃	夏目 和典	株三栄水栓製作所	常務取締役製造本部長
〃	松崎 寿広	前澤給装工業(株)	営業技術部長
〃	広中 賢	株昌立製作所	取締役営業部長

## 広報委員会

委員長	中北 健一	株中北製作所	代表取締役社長
副委員長	奥津 良之	株山武	AAC 営業技術部 FI/CV Gr. シニアマネージャー
委員	三橋 一功	株フジキン	取締役 CS マーケティング本部長
〃	松尾 誠吉	株松尾バルブ工業	代表取締役社長
〃	田中 弘之	株キッツ	大阪エンジニアリング Gr. 副技師
〃	野口 敬二	株ミヤワキ	取締役相談役
〃	齋藤 省律	株ベン	技術部開発プロジェクト
〃	山田 徹	株日本フイツシヤ	オーダーマネージメント部営業業務 Gr. マネージャー
〃	小川 隆	株KVK	品質保証室長
〃	大江 裕明	株日邦バルブ	専務取締役営業本部長
〃	青山 文明	金子産業(株)	技術部 部長
関係者	中村 浩一	株フジキン	CS マーケティング本部 AMG

## 「バルブ産業ビジョン追補版」策定の審議経緯

次のとおり、関係会議を開催して、「バルブ産業ビジョン追補版」の取りまとめを行った。

- ①平成 22 年 9 月 16 日(木) 技術委員会
- ②平成 22 年 11 月 4 日(木) ビジョン委員会
- ③平成 22 年 11 月 9 日(火) 技術委員会
- ④平成 22 年 11 月 11 日(木) 技術委員会環境WG
- ⑤平成 22 年 12 月 6 日(月) 広報委員会
- ⑥平成 22 年 12 月 8 日(水) ビジョン委員会
- ⑦平成 22 年 12 月 8 日(水) 国際委員会
- ⑧平成 22 年 12 月 16 日(木) 技術委員会
- ⑨平成 23 年 1 月 19 日(水) 国際委員会
- ⑩平成 23 年 1 月 20 日(木) 技術委員会
- ⑪平成 23 年 2 月 1 日(火) 広報委員会
- ⑫平成 23 年 2 月 3 日(木) ビジョン委員会
- ⑬平成 23 年 2 月 14 日(月) ビジョン・技術・国際・広報合同委員会

## 目 次

I. はじめに ～ バルブ産業ビジョン追補版の策定について	1
II. 第1期計画(平成19年度～平成22年度)の評価と今後の課題	1
III. 第2期計画(平成23年度～平成25年度)の作成方針とポイント	3
IV. 第2期計画アクションプラン	5

## I. はじめに ～ バルブ産業ビジョン追補版の策定について

当工業会は、平成 18 年に経済産業省が策定した「素形材産業ビジョン」を受け、平成 19 年 3 月に「バルブ産業ビジョン 2007」を策定した。ここでは「バルブ産業のあるべき姿・方向性」としてバルブ産業の将来像を打ち出すとともに、9 分野 42 項目に上るアクションプランを掲げた。

このアクションプランに基づき実施した事業には、たとえば『新版バルブ便覧』の発刊がある。これはビジョン策定後、約 3 年の制作期間を経て、平成 22 年 3 月 21 日に発刊された。発刊日の 3 月 21 日は、やはりアクションプランに基づき制定した「バルブの日」でもある。また、「バルブの日」の制定後には、バルブのイメージキャラクター「ばるちゃん」も誕生させ、今後のバルブ産業 PR のための土台をつくることができた。そのほかに実施した事業には、中国とドイツへの合同視察団の派遣、各種研修会の継続的な開催、環境対策の一環としての「バルブ製品アセスメントガイドライン」の発行(平成 23 年 3 月)などがあげられる。

このように、バルブ産業ビジョン 2007 を策定したことにより、当工業会ではさまざまな事業を実施してきた。しかしながら、ビジョンで打ち出したアクションプランのなかには、ビジョン策定後 4 年を経ようとする現在でも実践できていないものもある。これは、多岐にわたるプランのうち、どのプランから実行するか、明確な優先順位づけができていなかったことに起因する。

この点を反省し、また、平成 18 年以降の社会情勢・経済情勢の変化に合わせ経済産業省が「素形材産業ビジョン追補版」を発行(平成 22 年)したことを受け、当工業会でも今後、3 年ごとの短期計画でアクションプランの見直しと実践を行ってゆくこととした。これは、平成 19 年度～平成 22 年度を第 1 期、平成 23 年度以降を 3 年ごとに第 2 期・第 3 期と位置づけ、それぞれで実践するアクションプランを明確にするとともに、当工業会の人財・資材をそこに集中しようとするものである。

いま、平成 23 年度～平成 25 年度の第 2 期計画の策定にあたり、これをバルブ産業ビジョン追補版として発行する。

## II. 第 1 期計画(平成 19 年度～平成 22 年度)の評価と今後の課題

バルブ産業ビジョン 2007 は次の 9 分野から構成され、それぞれについて「あるべき姿・方向性」を示すとともに、分野ごとに計 42 の実施項目(アクションプラン)を掲げた。

1. 技術、技能を活かした攻めの経営
2. 健全な取引慣行の定着
3. 産業集積を活用した競争力強化
4. 積極的な海外戦略の展開

5. 同業／異業との積極的な連携
6. 多様なニーズへの挑戦
7. 息の長い人材育成
8. 安全・環境に配慮したバルブ産業の発展
9. バルブ産業に国民の目を振り向かせるために

分野ごとのアクションプランの実施状況と今後の課題について、以下に簡潔に述べる(実施項目の一覧は『バルブ産業ビジョン 2007』参照。[当工業会ホームページ](#)から入手可能)。

#### 1. 技術、技能を活かした攻めの経営

前述の『バルブ便覧』の改訂のほかには、産学連携による新技術研究開発、規格・基準整備の組織作り、産業財産権研修を推進できた。

#### 2. 健全な取引慣行の定着

会員向けに法令遵守の広報活動を行ったほか、取引ガイドラインを作成した(現在、発行に向け内容を見直し中)。本分野のアクションプランの速やかな実施は、第2期計画における喫緊の課題である。

#### 3. 産業集積を活用した競争力強化

新技術研究開発プロジェクトを実施し、産学連携については一定の前進を見せた。その他のアクションプランは、より具体性のあるプランに修正の必要がある。

#### 4. 積極的な海外戦略の展開

前述のとおり、海外への合同視察団派遣は毎年実施し、中国及びドイツのバルブ工業会、CEIR(欧州バルブ工業会)とのネットワークが構築できつつある。

#### 5. 同業／異業との積極的な連携

シール材メーカーを招き、ノンアスベストシール材の最新動向について意見交換を行うとともに、高温用ノンアスベストジョイントシートの選定指針を共同で策定した。今後も、バルブと近い業界との効果的な連携について検討を進めてゆく。

#### 6. 多様なニーズへの挑戦

3と同様、より具体的なプランを示したうえで実践に移す必要がある。

#### 7. 息の長い人材育成

若手社員を対象とした研修会は、毎年一定の成果を見せている。今後は、研修会の対象を若手以外にも広げ、カリキュラムも柔軟性のあるものにすることが求められる。また、技術の伝承については、即実施に移せるプランを再考する必要がある。

#### 8. 安全・環境に配慮したバルブ産業の発展

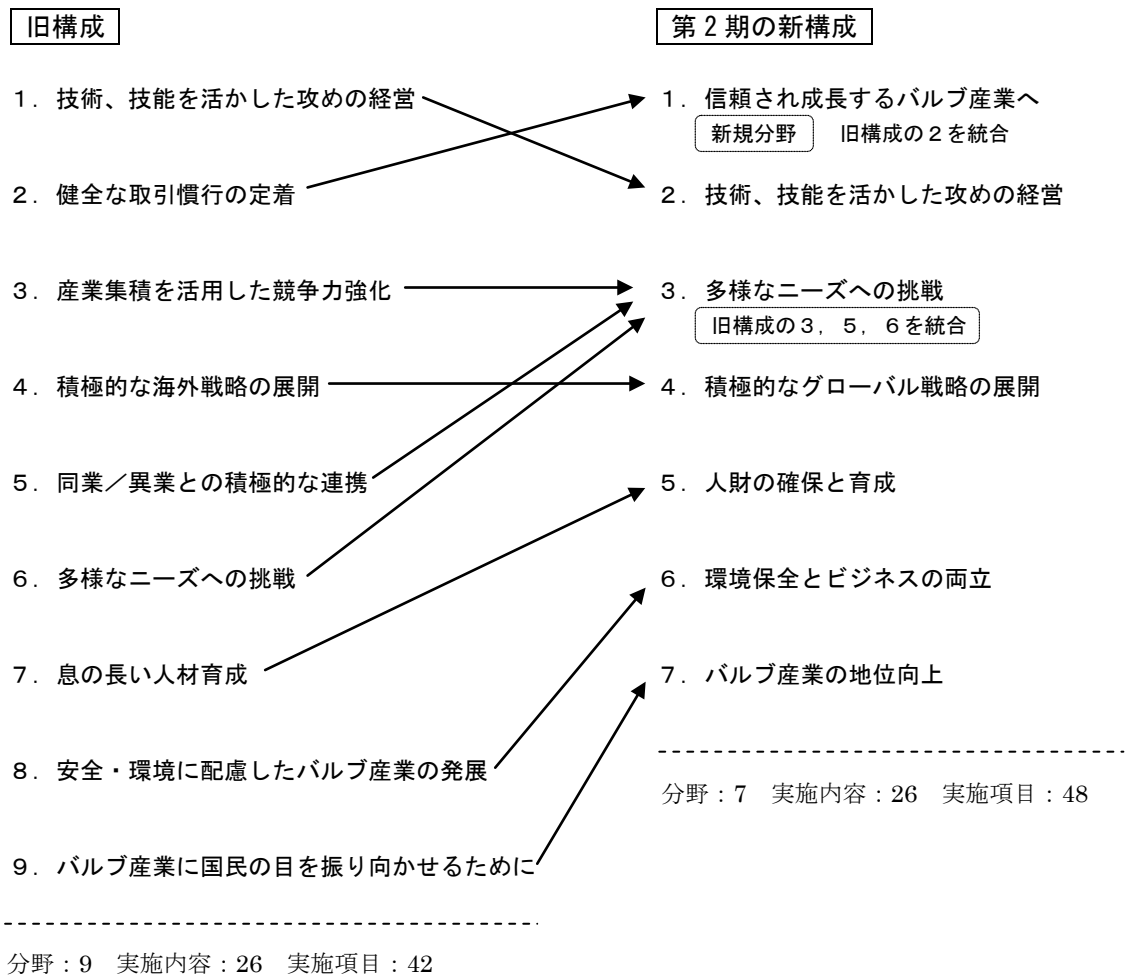
環境対応情報収集、ガイドラインの策定等、第1期において最も進捗をみせた分野である。第2期も引き続き、着実にアクションプランを実施することが必要である。

### 9. バルブ産業に国民の目を振り向かせるために

「バルブの日」とイメージキャラクター「ぼるちゃん」を制定した。これらを活用し、今後もよりいっそうバルブ産業をPRすることが求められる。

## Ⅲ. 第2期計画(平成23年度～平成25年度)の作成方針とポイント

Ⅱでも述べたとおり、『バルブ産業ビジョン2007』は9分野から構成されている。第2期計画ではこれを統廃合し、下表右の7分野で構成することとした。



旧構成では、たとえば産業財産権に関する実施項目が1と4にまたがっていたり、「自社の技術技能を評価する取組み」が1に、「業界の技術水準調査」が6にみられたりと、一見してわかりづらいものになっていた。また、当工業会内のどの組織が、いつ、どのようにその項目を実施に移すのか、といった具体性にやや欠けるところがあった。

第2期計画において7分野に構成しなおす狙いは、このわかりづらさの解消である。自身の似た実施項目はすっきりと一分野にまとめ、且つ、担当組織とその役割、平成25年までのスケジュールを明確にすることとした。

第 2 期計画では、分野の再構成にともない、すべての実施項目についても再検討を行った。ここでも、各実施項目を簡潔・明瞭にすることを目的に統廃合を行い、比較的速やかに実施に移せるだろう項目から優先的に、その具体策を固めることとした。

第 1 期計画で掲げた実施項目のほとんどは、将来のバルブ産業が活況を呈するために必要なものであることに変わりはないが、長期の準備期間を要するもの、及び、第 1 期計画策定から 4 年経ったいま不要と思えるものなどは、第 2 期計画からは除外した。また、修正が求められる項目については、各委員会で審議し修正したうえ、第 2 期計画に盛り込んだ。もちろん新たに追加した項目もあり、項目数自体は第 1 期よりも増えている。

第 2 期計画アクションプランの一覧はIVに掲載するが、最後に、今回新たに設けた分野「1. 信頼され成長するバルブ産業へ」について、簡単に説明しておきたい。

平成 22 年 10 月、当工業会の一会員企業において品質管理体制に関する問題が発覚し、新聞・テレビ等でも報道された。当工業会では、本件を重く受け止め、将来にわたって二度と同様の問題が起きることのないよう、第 2 期計画ではこの新規分野を冒頭に置き、会員企業への啓発を継続的に行ってゆくこととした次第である。なお、この「信頼され成長するバルブ産業へ」は、上表にもあるとおり、旧構成の「2. 健全な取引慣行の定着」を吸収して構成される。



## IV. 第2期計画アクションプラン

第2期計画アクションプランの一覧を以下に掲載する。

(担当区分について：ビ=ビジョン委員会、技=技術委員会、国=国際委員会、広=広報委員会)

### 1. 信頼され成長するバルブ産業へ

実施内容	実施項目	担当				平成23年度 (2011)	平成24年度 (2012)	平成25年度 (2013)
		ビ	技	国	広			
CSR(企業の社会的責任)の推進	企業行動憲章の策定	○				・できるだけ早期に策定	・周知啓発活動	・継続
	CSR推進のための定期的な研修会・講習会の開催	○				・6月までに第1回講習会開催	・継続	・継続
品質管理体制の徹底	会員企業の「製品安全自主行動計画」策定の促進	○				・会員向け説明会の開催	・継続	・継続
社会貢献	募金活動(会員対象)	○				・担当組織設置 ・活動開始	・継続	・継続
	災害時の支援活動	○				・担当組織設置 ・活動開始	・継続	・継続
適正取引慣行の推進	独禁法・下請け代金法順守の広報活動推進	○				・取引ガイドラインの改訂 ・周知啓発活動	・継続	・継続

### 2. 技術、技能を活かした攻めの経営

実施内容	実施項目	担当				平成23年度 (2011)	平成24年度 (2012)	平成25年度 (2013)
		ビ	技	国	広			
自社の技術技能を正確に評価する取組み	ホームページでの会員企業の技術紹介		○			・技術情報募集開始及び公開	・技術情報の拡充	・継続
技術、技能、規格等を活用して、収益につなげる取組み	官学産社によるバルブ新技術研究開発の推進		○			・新技術研究開発プロジェクト継続	・継続	・継続
	規格・基準整備		○			・運営体制の確立(技術委が統轄)	・新運営体制の活動開始	・継続
	JIS規格等の国際化推進		○			・従来に引き続き推進	・継続	・継続
産業資産経営の取組み	産業財産権保護への取組み		○			・研修会開催 ・模倣品・特許侵害調査	・継続	・継続
バルブ技術の体系化	新版バルブ便覧の改訂		○			・2010年発行版の普及推進	・継続	・改訂WG設置 ・見直し開始
	バルブ設計データブック改訂の検討		○			・改訂の方向性の検討	・WG設置/改訂内容の検討	・継続

### 3. 多様なニーズへの挑戦

実施内容	実施項目	担当				平成 23 年度 (2011)	平成 24 年度 (2012)	平成 25 年度 (2013)
		ビ	技	国	広			
業界標準化・共通化の 枠組み検討	交換部品・メンテナ ンス部品の寸法・形状の 統一	—	—	—	—	・従来に引き続 き水栓部会で 検討	・継続	・継続
資材調達の安定化	代替材料の開発促進		○			・情報収集	・継続	・継続
企業間連携による競 争力の強化／バルブ 産業に必要な技術分 野との連携	技術交流会・異業種交 流会の開催(勉強会の 開催など)		○			・従来の技術研 修会継続(具 体的テーマの 検討・実施) ・会員ニーズの 調査	・継続	・継続
国内外の技術・市場の 技術情報調査	調査チーム設置	○				・調査チーム設 置のための準 備開始	・運用開始 ・収集した情報 をHP等で公開	・継続

### 4. 積極的なグローバル戦略の展開

実施内容	実施項目	担当				平成 23 年度 (2011)	平成 24 年度 (2012)	平成 25 年度 (2013)
		ビ	技	国	広			
海外バルブ産業の能 力を把握する取組み	調査団派遣	—	—	—	—	・会員ニーズ別 に調査団派遣	・継続	・継続
	海外主要国のバルブ 工業会等を通じた関連 情報入手			○		・海外視察時に 現地のバルブ 工業会と意見 交換	・継続	・継続
海外進出に関する情 報収集および情報提 供	ASEAN 各国での素材 調達の状況把握			○		・ casting、鍛造協 会との関係強 化を図り情報 収集	・継続	・継続
	casting、鍛造、部品(シー ル部品、ねじ等)の海 外での入手先の調査			○		・ casting、鍛造協 会との関係強 化を図り情報 収集	・継続	・継続
	各国の法規、認証等 の情報収集			○		・市場動向にあ わせ、国を選 定し認証や規 制を調査	・継続	・継続
	法規、認証等に関する 勉強会・講習会の開催			○		・調査状況に併 せて、JETRO や政府系機関 から講師を招 き講習会開催	・継続	・継続
	欧州バルブ産業先発 国の産業史に関する 講演会			○		・講演依頼等準 備	・講演会開催	・継続
国際協業(FTA・EPA・ TPP)についての把握	ASEAN 諸国、環太平 洋諸国との貿易協定 の調査			○		・JETRO 等の機 関にて調査	・継続	・継続
	国際共創の実態把握			○		・JETRO 等の機 関にて調査	・継続	・継続

## 5. 人財の確保と育成

実施内容	実施項目	担当				平成 23 年度 (2011)	平成 24 年度 (2012)	平成 25 年度 (2013)
		ビ	技	国	広			
人財不足の対応	大学就職部との連携	○				・ネットワーク作り	・継続	・継続
	工業会 HP への会員求人情報(外国人含む)掲載	○				・求人ページの開設準備/実施	・継続	・継続
	外国人の確保と育成	○				・外国人採用に関する調査	・運用開始 ・会員への情報提供	・継続
就労環境の改革	高度化技術の導入	○				・会員向け情報提供	・継続	・継続
	5S ルール・安全職場構築(各社対応)	—	—	—	—	・引き続き各社で対応	・継続	・継続
技術、技能、マインドの伝承	研修会の開催		○			・従来若手研修会の継続 ・カリキュラム見直し	・新カリキュラムによる研修会開始	・継続
	マイスター制度検討・導入	○				・WG 設置・検討	・制度導入に向けた検討継続	・制度導入に向けた検討継続
	テクニカルカレッジの創設	○					・制度導入に向けた検討継続	・制度導入に向けた検討継続
	研修制度・表彰制度の在り方の見直し	○					・新制度導入	・継続

## 6. 環境保全とビジネスの両立

実施内容	実施項目	担当				平成 23 年度 (2011)	平成 24 年度 (2012)	平成 25 年度 (2013)
		ビ	技	国	広			
モノづくりの基準作り	ガイドラインの策定		○			・「バルブ製品アセスメントガイドライン」運用 ・自社製品環境適合評価ツール運用	・工業会評価基準の検討	・「グリーンバルブ(仮称)」制度の導入
	環境対応技術情報収集・提供		○			・セミナー開催 ・HP での情報提供	・継続	・継続
環境適合経営の統一性	工業会環境方針の制定(バルブ・水栓に限定せず)		○			・環境方針内容の検討	・工業会環境報告書発行準備	・工業会環境報告書発行
3R の推進	Reduce(資源の削減)、Reuse(資源の繰返し利用)、Recycle(資源の再利用)		○			・会員企業への啓発活動	・継続	・継続
CO <sub>2</sub> 排出削減の推進	会員への啓発活動推進(政府の支援策等活用)		○			・会員企業への啓発活動	・継続	・継続

## 7. バルブ産業の地位向上

実施内容	実施項目	担当				平成 23 年度 (2011)	平成 24 年度 (2012)	平成 25 年度 (2013)
		ビ	技	国	広			
バルブ産業のPR活動	ホームページの拡充				○	・従来に引き続き推進	・継続	・継続
	PRグッズの拡充				○	・従来に引き続き推進 ・会員ニーズの調査	・継続	・継続
	その他 PR 活動				○	・PR 案の検討と実施	・継続	・継続
地域とのコミュニケーション活動	地域の学生向け講習会の実施				○	・会員に講習会開催依頼 ・講習会開催	・継続	・継続
「バルブの日」のイベントの実施	バルブ展示会の開催				○	・展示会実行委設置／準備	・開催	・次回開催準備
	大学生対象の懸賞論文募集				○	・論文審査組織の立ち上げ ・募集開始 ・バルブの日に入選者発表	・見直しと継続	・継続
官学産社共同のバルブ産業地位向上活動	バルブ工学会設立の基盤づくり		○			・情報収集／学会設立要件等確認	・進捗状況に応じてWG設置	・WG活動開始
	各地の大学での寄附講座開催				○	・情報収集／講座開催要件等確認	・進捗状況に応じて講座開設	・継続

**バルブ産業ビジョン**

—日本ブランドの恒久的な地位確立を目指して—  
**追補版**

平成 23 年 3 月 21 日発行

**社団法人日本バルブ工業会**

<http://www.j-valve.or.jp/>  
〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館  
TEL : 03-3434-1811 FAX : 03-3436-4335  
E-mail: info@j-valve.or.jp